

俳優 石上亮の大好きな宿題  
『映画感想文』

第6回 告白

2010年6月24日

告白という言葉から甘酸っぱい青春の香りがしてくるのは、オレだけでしょうか?もちろんこれは、好きなコに付き合っただけで下さって伝える告白のことです。今はメールという便利なツールがあるので、告白は簡単に出来ちゃう時代ですよ。でも、オレが小・中学生の時は携帯電話なんて存在なくて、メールで告白なんて概念は全くありませんでした。なので、告白はもっぱら放課後の教室や公園でするのが定番でした。オレはと言いますと…情けない話、初めて告白できたのは大学生になってからでした。どうしようもないビビりだったんでしょうね。実際には告白できるチャンスはあったはずなんです。いじめられっ子だった小学校6年生当時、何故かは分かりませんが、ひとつ下の学年の女子にモテた時期がありました。まあ、あくまでごく一部の女のコたちになんですが。当時、家の近くにマイティ一進学院って学習塾があって、その女のコたちがたまたま塾生でして、オレが塾の前を通る度に「石上せんぱ～い」って声をかけてくる訳ですよ、黄色い声で。ウソかと思うかもしれませんが、ガチです。しかし、そんな千載一遇のチャンスを、オレは何のアクションも起こさず過ごしてしまいました。今思えば、本当にやれやれですね。

さて、そんな甘酸っぱい時代を思い出させてくれた映画があります。松たか子さん主演の『告白』です。どストレートなタイトルですが、まさにタイトル通りの映画なんです。舞台はとある中学校で、松たか子さん演じる女教師・森口悠子の娘が、自分のクラスの生徒に殺されてしまうんです。犯人は、あろうことかクラスの中の2名。森口先生はそこまで突き止めていることを、終業式後のホームルームで淡々と話し出します。この時点でストーリーに引き込まれる準備は出来るんですが、松たか子さんの無表情で告白していく芝居が、それを万端にしてくれます。そして映画はいつしか、事件の関係者による告白大会の様相を呈していきます。と言っても大っぴらに告白する訳ではなくて、関係者たちがそれぞれの視点で、どういうスタンスで事件に関わっていたのかを独白していく形式でストーリーが進んでいくんです。なので、観る人によっては森口先生以外の人間に感情移入できる仕掛けになっているんです。それは、犯人AやBである可能性もある訳でして。そういった意味でも、R15+指定は領けます。ただ、せっかく中学校を舞台にした映画なのに、中学生が観れないというのは、何かもったいない気がします。映画感想文の趣旨から逸れてしまいそうなので、この辺で。兎に角、この映画、最後まで気を抜かずに観て下さい。松たか子さんのラストの台詞に注目ですよ。

最後にオレも告白します。小学校6年生の時、オレにいつも声をかけてくれた5年生のキミ、あの時は照れで告白できませんでした。実は好きでした。なーんてね。